

おすすめ本のご紹介

『僕はどうしても自分がステキかどうかを他人の評価で決めてるんだろう。』

『魚がとれなくても、

漁師は海に怒らない。』

『食べ物だけじゃなく、ボクの中にいろいろな経験が入って

〈ボク〉が積み重なって、

ボクが どんどん 〈ボク〉になる。

ボクは世界からできているみたいだ』

『自信がないから立派に見せようとか、

自分を無理して変えようとか、

そう思えば思うほどあせって、

心は苦しくなっていくんだ。

自分を苦しめていた自分に気付くと、

立派でもない、ダメでもない、

どちらも無い、

「ただの自分」がここにいる。』

『人生は次々に出てくる自分に素直に生きていけばいい。』

【ブッタとシッタカブッタ】

シリーズより引用



「こんなに、こんなに愛しているのに…」と、悩めるブタ、シッタカブッタがボヤいています。シッタカブッタのじたばたする姿を見て、笑いながら、あなたは幸福や不幸、悩みの正体を発見することでしょう。マンガといってあなどれない、「心」を語る本。第45回文芸春秋漫画賞受賞のシリーズです。

白石短歌会

コロナウイルス太陽熱で焼き潰す
そんな願いは叶はぬものか

渡邊美枝子

踏み出しし足を止めれば靴の先に
今咲かむとする庭石菖の株

坂本 美江

この山里も新型コロナウイルス騒動に
閑散としてゴールデンウィークに入る

白石 礼子

水温くみ大きな池にお引越し

数多金魚に癒さるる日々

渡邊阿里子



人権シリーズ

『被害者は何時も弱者』

世界の各地で、人々の身が危険にさらされ、生活の場さえ失っている悲しい争いが起きていることを、マスコミを通して誰でも知っています。人間同士の争いが、集団や国家間の争いとなれば戦争です。

私の学んでいる歴史の中でも、身近なところで戦争があり、村人の平穏な小さな生活を脅かす出来事が起きていました。戦国時代は、近隣同士の「国」が国を富ますと言った。大義の下、絶えず覇権や領地の争奪戦を行っていました。この戦いの中で、起こった一つの出来事の記録が浄蓮寺古文書の中に有ります。武蔵と相模国（埼玉・東京・神奈川）を支配していた後北条氏が、軍勢を秩父方面に送る際、家臣の松山城主上田氏の領地（小川町から東秩父の地域）内で軍勢が人や馬等の略奪を禁止しています。裏を返せば、合戦に出た軍勢は先々で、婦女子や金品を略奪するのが当たり前で、拉致された婦女子は、人身売買の市で売られたのです。人々は合戦になると家族の安全を守る一つとして、住み慣れた家や土地を捨てて逃げ（欠落）ました。欠落は当時の領主の掟で死罪とされ、一家を挙げて命がけの逃避行でした。世界の各地で今も起きている人権無視の悲劇と同じです。

私たちの身近には、小さな争いは絶えずありますが、その争いを収める知恵を持って、平穏な日常を取り戻しているのもまた、私たちです。人々が長年育んできたこの知恵を活かし、争いを無くすことが大切なのです。

東秩父村文化財保護審議会長

梅沢太久夫